

放課後等デイサービス・児童発達支援兼自己評価表【事業者向け】

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	16%	51%	33%	運営規定は守っている。療育内容や行う人数を変更し工夫して行っている。
	②	職員の配置数は適切であるか	100%	0%	0%	療育内容と利用者に合わせて適切に配置している。規定遵守している。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	66%	34%	0%	バリアフリーではないが、怪我や事故を防止するように環境を設定している。
業務改善	④	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	100%	0%	0%	日々の療育の中で気づいた点などは共有し、次に活かしている。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	100%	0%	0%	昨年度よりアンケートを実施し改善につなげている。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	50%	50%	0%	公表においては今年度より実施する。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	0%	66%	34%	第三者評価においては行っていない。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	100%	0%	0%	特に運動時においての支援研修を欠かさない。また、資格取得に積極的に取り組んでいる。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	100%	0%	0%	半年に一度の面談を行い、計画書を作成している。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	83%	17%	0%	
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	100%	0%	0%	運動内容を確認したり、新しい取り組みの際には把握や考察を欠かさない。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	83%	17%	0%	運動療育において、重要な動きを積み重ねられるよう、利用者の状況や療育内容の工夫を重ねている。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	83%	17%	0%	主に運動療育を行う中で、時間の取れる長期休暇には個々の課題支援充実重点を置いている。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	100%	0%	0%	活動の中では、集団での適応場面と、個別に対応する療育内容を組み合わせ対応している。

	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	100%	0%	0%	利用者の状況把握も含め、流れや緊急対応について確認している。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	100%	0%	0%	子どもの把握や療育の振り返りを行い、全員が周知している。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	100%	0%	0%	個別支援記録を欠かさず記録し、全員が周知しながら次の療育に活かしている。

	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等サービス計画の見直しの必要性を判断しているか	100%	0%	0%	年2回のモニタリングを行い、個別支援計画書を作成、保護者の署名、捺印をいただいて支援にあたっている。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	100%	0%	0%	必要とされている支援について検討をし活動を見直しながら努めている。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	100%	0%	0%	児童発達支援管理責任者が対応している。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	83%	17%	0%	保護者からの情報が主だが、送迎の際に子どもの様子など気になることなどもお話ししている。 トラブルや怪我、様子などの連絡は怠らないようにしている。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	66%	34%	0%	主治医と話すことはないが、保護者から病気について十分に伺い、対応できるようにしている。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	50%	50%	0%	保護者からのご希望や相談を受けて対応するケースもある。
	㉔	学校を卒業し、放課後等サービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	0%	50%	50%	現状対応児はおりません。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	83%	17%	0%	ペアレントトレーニング研修を受講している。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	0%	34%	66%	利用者の利用意向が運動療育が主であるため、

	⑳	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか	34%	66%	0%	
	㉑	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100%	0%	0%	送迎時や連絡帳での伝達を行いながらも、必要に応じてお話する機会を持っている。
	㉒	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	68%	16%	16%	相談時においてペアレントトレーニングの取り掛かりとなるような支援方法として行うこともある。
保護者への説明責任等	㉓	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	100%	0%	0%	契約時にはわかりやすい説明を心掛けている。
	㉔	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	100%	0%	0%	相談においては、どんな内容においても優先することを心掛けながら、助言が適切となるよう努めている。
	㉕	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	0%	34%	66%	個々の相談が多く、また内容や各々のお考えの違いもあり予定していない現状である。
	㉖	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	100%	0%	0%	苦情等を受け入れやすい対応を心掛けている。今のところ苦情はないが、あった場合には迅速対応を行えるよう努める。
	㉗	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	100%	0%	0%	毎日のブログ、こどもプラス本部からの会報誌の配布を行っている。
	㉘	個人情報に十分注意しているか	100%	0%	0%	鍵付きの書庫にて書類管理を徹底している。利用に際しては最低限としている。
	㉙	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	100%	0%	0%	相談や質問にお答えする際には、一方的ではなく、ご理解いただいているか、また内容に際しては話しやすい環境設定を心掛けている。
	㉚	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	66%	34%	0%	昨年度は地域より依頼のあったボランティアの受け入れを利用者の方の了承を得て行ったが、全員の了承を得ることが難しいこともある。

非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	83%	17%	0%	緊急避難に際しては、引き渡しリストを保護者に提出していただいている。感染症においては、登校許可書を提出していただいている。週1回消毒を徹底している。
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	100%	0%	0%	昨年は年2回の訓練を実施している。今年度は利用者の周知を目的とし回数を増やしている。
	㉒	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100%	0%	0%	全員が研修を受けられるよう整えたい。
	㉓	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	68%	16%	0%	身体拘束を行わなければならない危険行為ケースについて契約時に説明している。お子さんの様子をお聞きし、拘束になるような事態は避けるよう周知している。
	㉔	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	100%	0%	0%	個々に持参していただく対応を取っている。
	㉕	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	100%	0%	0%	事故後必ず記入し、伝達しあっている。

日々の療育に携わる職員として振り返る中、現状維持の大切さを感じるとともに、改善すべき事項を共有しながら今後に生かしていきたいと思えます。また、ご利用保護者様からのアンケートと照らし合わせ、今の現状に止まることなくより良い教室を目指します。

運動遊びと療育支援 こどもプラス 幕張本郷教室